

## 授業における効果的な新聞活用について

兵庫県佐用郡佐用町・宍粟市三土中学校事務組合立三土中学校 校長 中尾 久幸  
教諭 右田 悠

### 1 はじめに

本校は男子 18 人、女子 19 人 計 37 人の小規模校である。昨年度初めて NIE 実践校に指定され、「生徒にとって新聞をより身近なものにする」と「創意工夫しながら、教師自身の教育活動における新聞活用能力を高める」を目標とし、各教科での新聞活用を中心に続けてきた。NIE 実践の 2 年目にあたる本年度も昨年に引き続き、教科の授業をはじめさまざまな場面で新聞とふれあう機会をつくることに取り組んだ。

### 2 実践の概要

#### (1) 学校としての取り組み

##### ①新聞の閲覧場所の工夫

昨年と同様、10 月～1 月までの 4 カ月間、6 紙の無料購読をさせていただいた。新聞を広げるスペースも確保できることから、図書室に設置した。さらに毎日の各紙 1 面の見出しと、教師が一つの記事を Pick up して紹介する文章を書き出した黒板を図書室前に設置した。結果、図書室を訪れる際に黒板の前で足を止め、新聞を広げたり、6 紙の見出しを見比べたりと関心を寄せる生徒が増えた。



【各紙一面の見出しを掲示】

##### ②掲示による意識付け

本年度から、掲示板の一つを NIE 専用とした。学校区内の新聞記事など生徒が興味を持つものを選んで掲示した。掲示板の前で立ち止まり、新聞について会話したり、教室で話題になったりと普段、図書室で新聞を読まない生徒も興味を持って掲示物を閲覧している様子が見られ、新聞を身近に感じさせる手立てとして有効であった。

##### ③ひょうご新聞感想文コンクールへの参加

昨年度に引き続き、神戸新聞社主催のひょうご新聞感想文コンクールへ参加した。全学年で夏季休業の課題として新聞感想文の取り組みを行った。大きな記事だけではなく、佐用町で起こった水害についての記事など身近な記事を選んでいる生徒もいた。一つの記事を深く読み込み、自分の意見としてまとめる良いきっかけになった。

##### ④新聞記者派遣事業

本年度は、共同通信社神戸支局の岩村賢人記者を講師にお招きし、新聞記者派遣事業講演会を実施した。前半は岩村さん自身の体験談を交えながら、新聞記者の一日の仕事内容や取材現場の様子や一番印象的だった取材について講演して下さった。後半は、生徒の質問に答えていただいた。「記者一人あたり一日何面の記事を書くのですか」「台風など危険な場所での取材をするときの安全対策は、どうなっているのですか」など、さまざまな質問が飛び交っていた。【講演会の様子】



《生徒の感想文より》

去年よりも自分たちから質問をたくさんできて、話が広がったり深まったりしたので、新聞についてより知ることができてよかったです。逆に質問を岩村さんがしてくださったので、それだけ読者のことを考えてくださっているのだなあと嬉しくなりました。新聞記者の方は遠い現場に足を運んだり、電話などに頼らず面と向かって話をするために相手の所に会いに行ったりしていると知って、仕事に情熱を注いでいるのだなと思いました。新聞にはそれぞれの記者さんのいろんな思いがたくさん詰まっていると思うので、1回大まじめに1紙をじっくり読んでみようかなと思います。

(2) 授業における NIE 活動の実施

各教科で、新聞を活用した授業実践を行った。本年度は、道徳での新聞活用も試みた。

教科；道徳	学年；2年生	単元名；シルバーシート（友だち）
ねらい	思いやりの心を持って自ら行動しようとする態度を育てる	
新聞	1月17日 神戸新聞 ふれあい（読者からの投稿）	
活用のポイント	席をゆずる側の気持ちだけでなく、ゆずられる側の気持ちを知ることができる資料として、活用した	
学習活動	シルバーシートに座っていない主人公が率先して席をゆずることができなかつたために、足が不自由な人が迷惑を受けるという話である。その原因を考える中で、シルバーシートの是非を議論する活動になっていくが、それにこだわることなく、一人ひとりが思いやりを持つことができれば解決することに気づかせるために本資料を紹介する	
成果と課題	教科書に使用されている話や文章について生徒が感じるの、どんなに心に残るいい話であろうと、実際は現実的でない絵空事のように感じていることも少なくない。新聞に記載されている、読者からの生の「声」や「意見」を活用することは、この課題を解決するために効果的な方法であることを、生徒の反応や授業後の感想から強く感じた。また、その全ては自分と同じ意見ではないことも学ぶ良い機会になったかもしれない。これからも積極的に活用したい	

教科；家庭科	学年；1年生	単元；食の安全と情報
ねらい	食の安全面・旬・地産地消について考え、食品を適切に選ぶことができる力を身につける	
活用のポイント	食に関する事件や地域の食に関する記事についてまとめ、意見を交換し合うことで食への興味・関心を深める	
学習活動	各テーマに沿った新聞記事のポイントをまとめて感想を書く。班ごとに一人ずつ発表し合い、意見を交換する	
成果と課題	◎「季節の食べ物」「地域の食べ物」「食品偽装問題」「料理」の4テーマに絞った。興味深く新聞を選んでおり、一つの新聞記事を深く読むきっかけとなった △難しいテーマの記事は中学生には理解しにくい文章もあるため、教師側の準備や辞書で調べる時間の確保などが必要であると思った	

教科；理科	学年；3年生	単元名；太陽系の天体
ねらい	太陽系の天体の特徴を知るとともに、惑星の動きや見え方、月の満ち欠けと日食・月食について理解させる	
活用のポイント	太陽系の天体である惑星の特徴を、ボイジャー1号の送ってきたデータで構成された記事を基に具体的に理解する	
学習活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 太陽系の天体は、どのような姿をしているのかを理解する</li> <li>2 金星が真夜中に見えないのはなぜかを地球の自転とともに理解する</li> <li>3 月の動きと見え方について、太陽・月・地球の位置関係の変化とともに理解する</li> </ol>	
成果と課題	<p>◎1997年に打ち上げられた米航空宇宙局の探査機ボイジャー1号によって宇宙の観測が今も続けられており、木星の輪（リング）は1979年にボイジャー1号によって発見され、そのときには大赤斑と呼ばれる独特の模様の写真も送信されてきた。このように、新聞記事による最新の宇宙観測について知識を深め、天体や宇宙への興味・関心を喚起することができた</p> <p>△記事によっては中学生の理解の範囲を越えているものもあるので、指導者の側でわかりやすい説明をする必要がある</p>	

教科；道徳	学年；3年生	単元名；戦争
ねらい	戦争・戦時中の実態を知り、反戦意識を高める	
新聞	神戸新聞 8月 「シリーズ 戦争と人間 第2部」	
活用のポイント	新聞記事を活用し、戦争体験者の実体験を通して学習を深める	
学習活動	新聞記事を読んで、各自の感想をまとめた上で発表し、意見交流をする	
成果と課題	<p>◎戦争体験者の談話であり、細かい描写もあって、戦争を知らない生徒たち（教師も含め）にとって戦争の悲惨さが如実に伝わってきたと思う。祖父母からいっらか聞いてはいたものの、より深く戦争の実態を知ることができた</p> <p>△戦争に関する体験談等は、新聞記事に限らず、インターネットを利用して手に入れやすくなった。しかし、分量が多いので、どの側面から触れさせるかを授業者がよく考えておくことが大切だと思った</p>	

教科；数学	学年；3年生	単元；標本調査
ねらい	新聞記事の文章にどのくらいの割合で数字が出てくるか標本調査で推定する	
活用のポイント	1日分の新聞から乱数さいを使って1ページを抽出する	
学習活動	1日分の新聞から1ページを選び、記事の文字総数を数える。また、その中に含まれる数字の数を数える。その際、広告欄やテレビ番組欄、スポーツ記事のデータなどは除く。また見出しや写真の説明、かっこ（ ）「 」や句読点は字数に入れず。最後に数字の含まれる割合を計算する	

成果と課題	<p>◎1時間かけて数えるのは大変だったが、実際に標本調査をすることでその活用の仕方や仕組みについて理解できたように思われる。また、その結果から記事の中の文字全体に対する数字の割合は約4%という結果が得られた</p> <p>△文字数を数えるのにかなり時間がかかってしまった。3年生10人のデータだけで全体ではどれぐらいかを調べるのが難しく、標本調査としての信頼性があるかどうかが問われるが、10人の平均を取ることで全体を推定できると思われる</p>
-------	--

教科；社会	学年；3年生	単元；公民分野 選挙の意義としくみ
ねらい	民主政治での意義について考え、日本の選挙制度を理解することができる	
活用のポイント	日本の選挙制度について、問題となっている「一票の重さ」の格差について、新聞記事を活用し、最高裁判所の判決を注視させ、小選挙区制における一票の重さの格差が憲法違反であることを捉えさせる	
学習活動	<p>第一次 新聞記事を切り抜き整理し、テーマを決める</p> <p>第二次 テーマに沿って意見をまとめる</p> <p>第三次 第四次 問題点や疑問点を付箋に書き出し発表する</p> <p>第五次 今回のやるべきことをまとめる</p>	
成果と課題	<p>◎新聞をじっくり読むことにより、多様な考え方を育み、思考力や想像力を養う。一票の重みの格差を具体的に捉えさせ、選挙制度の問題点を明確にする</p> <p>△複雑な社会情勢を理解するために多くの予備知識を必要とする。その課題を解決するために新聞を活用し過ぎる傾向があり、授業の補助資料として活用する必要がある</p>	

【家庭科：新聞記事を探す様子】

【家庭科：班の中で発表する様子】

【数学：文字を数える様子】



### 3 まとめ

昨年度から NIE 実践指定校の認定を受け、2年間「授業における効果的な新聞活用について」さまざまな実践を行ってきた。授業で新聞を取り入れたり、掲示を工夫したりすることで生徒は新聞を身近なものに感じていた。時事問題の記事だけでなく、読者からの投稿など「心を打つ新聞記事」を道徳で扱うことが、生徒の心の成長につながる—と実践からわかった。課題としては、6紙無料購読の期間にのみ、実践が集中していた点である。年間を通して新聞を活用していく計画を立てておけば、もっと効果的な実践ができるように思う。来年度からも新聞をうまく活用し、生徒の成長に役立てていきたい。